



リチウムイオン電池活用の 太陽光発電の街路灯を開発

太陽光発電システムの設計、施工などを手掛けるイーズライフ(安城市)は、同社オリジナルの太陽光発電システムを活用したソーラライト、Semisolar Light MINI(セミソーラライトミニ)シリーズの最新作となる街路灯「TSUKUTSUKUBOUSHI(ツクツクボウシ)」を、LEDメーカーと共同で開発した。

5月25日から27日の3日間、東京ビックサイトで開催される「2022NEW環境展/2022地球温暖化防止展」での販売を目指し、現在、実際の気象条件での正確な点灯時間など仕様テストを進めている。

セミソーラライトミニシリーズは、駐車場などで活用されている夜間常時点灯するセミソーラライトシリーズとは異なり、停

電時や人が通った時だけ明かりが必要というニーズに対応したものの、セミソーラライトに比べ、より低価格を実現したシリーズだ。

今回新たに開発したツクツクボウシは最新技術のリチウムイオン電池を採用し、ソーラーパネルとバッテリー、LED照明が一体となっている。このため従来品に比べ、取り付け作業時間を大幅に短縮できるという。

リチウムイオン電池を採用しているため、長寿命で、軽く、さらにデザイン性も高い。サイズは奥行き660mm×幅342mm×高さ930mmで、重さは8kg。搭載している照明は2種

あり、人感センサー付きのもの、夜間青色LEDが常時点灯するもの。人感センサーで点灯する照明は、最大20ワで、14

新製品「TSUKUTSUKUBOUSHI」と専用のリモコン



0度配光レンズを搭載しており、1台でも広範囲を照らす。人を感知しない間も夜間は完全には消灯せず、明るさを落として点灯状態を保つ。人を感知した後の点灯時間は、約10〜300秒の間で自由に設定することができるといえる。

青色のLEDは、災害時に停電となつて外の明かりがすべてなくなった時も、街路灯がある場所を知らせるために組み込んだもの。明るさは1%単位で調整が可能という。2種の照明に関する操作は、すべて専用のリモコンで行う。湾曲・直線ポールはもちろん、電柱や壁面へ直接設置することも可能。価格はオープン。中島英雄社長は「新製品は、リチウムイオン電池を使っているためコンパクトで軽いのが強み。さまざまなニーズに答えられるよう商品展開を行っており、防犯や防災など顧客の多様なニーズに合わせて最適な商品を提案します」と意気込みを語った。

DATA

株式会社イーズライフ
代表取締役 中島英雄
安城市百石町2-12-3
TEL : 0566-75-1134
FAX : 0566-75-1189
<https://es-life.co.jp/>